

# おーいペンギンさーん

原作/岡田よしたか (福音館書店刊)

脚色/松本 則子 演出/西村和子 美術/永島梨枝子 音楽/一ノ瀬季生 制作/古賀恵子

お風呂屋さんにひとりで行った太郎くん。  
お風呂から上がってみると、  
「あっ!ぼくの服がない!?!」  
残っていたのは なんとペンギンの服でした。  
太郎くんはすぐに追いかけた。  
『おーい ペンギンさーん』  
舞台はお風呂屋さんから南極へ  
太郎くんはペンギンのペンタロウを追っていく途中、  
ワニやあほうどり 最後には くじらに助けられ、  
やっとのことで南極についてみると…

## ほんまにあつたらええのになあ

一人でお風呂屋に行ってみようかなと思って、思い切ってお父さんに言ったら許してくれた。お母さんも「行ってもいい」と言ってくれた。「服、まちがえんと帰っといでや」と言われ、「間違えるわけないやん」と胸を張って出かけてきた。そやのに、風呂から上がった『僕の服がない。』これでは帰られへん。『ペンギンの子がまちがって着て帰った』と番台のおばちゃんが言うた。なにがなんでも南極まで行って、服を取り返さなあかん。走りだす太郎君。私は思わずエールをおくります。そやで「ここで、シオシオと帰ったら、二度と親から信用してもらわれへんで」と。

泣きもせんとまっしぐらに走る太郎君。ほらみてみ、世間も捨てたもんやないやろ、手伝ってくれる大人はようさん出てくるやんか。そやけど、手伝ってくれる大人って、みんなけつたいな人ばかりやな。

けつたいやけど、あつたこうて、ええ人やな。何かに向かってひたすら走る。人に助けられながら、自分の目的を達成する。

体を動かして何かをすることが苦手な社会。人と人との心の伝達が会話という形を取りにくい社会。そんな社会で暮らすしかない子ども達に、「こんなことあつたら面白いとおもわへんか」「こんなことあつたらやれへんか」と子ども達に呼びかけながら創りました。

脚色 松本則子

大阪弁のナンセンスな人形劇

